琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　日米協ギ（委）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): 日米協議委員会 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43724

[redacted]

第一三〇

実際に聞き
[illegible]
47/11/15

船舶種別に関する外務大臣答弁

「第9回の日米協議委員会以来懸案になっておりました沖縄船舶旗の変更に関する日本側提案に、米側が原則的に同意され、更に具体的提案を行なわれた事に対し、感謝の意を表します。然しながら、日章旗は日本国民にとって極めて神聖なものでありまして、これに他の標章を加えて一つの旗としたものを沖縄船舶旗とすることには慎重な検討を要するところであります。

国旗の尊厳ということは、米側においても、十分理解されるところと考えますので、~~本日の米側提案の旗章の一つを改めて~~、日章旗と~~デルタ旗~~沖縄を表示する旗章を併掲するという方式とされることを強く要請いたします。

なお、日本側においては、それと並行して、沖縄籍船舶に対する管轄権の問題を含め、沖縄籍船舶に日本国旗そのものを掲揚することに伴う法律的問題点の解決の可能性について、引続き検討していることを御参考までに申し添えておきます。」

~~(通訳)~~

米側が一枚の布から成る旗を提案している もう一つの理由は、もし、併揚ということになると、沖縄外において、住民が日章旗のみを残し、他の部分を外し飛行する請求を感じ、その結果、無用の困難が生じるかもしれないことをおそれるからにあると述べ、これに対して、◎

秘
無期限

「船舶旗」について（第11回協議委員会）
42.1.25

まず、ジョンソン大使より別添1のステートメントがなされ、米側3案の図柄が示された。

これに対し、三木大臣より別添2の発言があった。

これは

つづいて、三木大臣は、さらに説明すれば、一つの旗とせず併せて掲げることとしたいという意味である。大使は「一つの旗」に言及されたが、それには、ぬい合わせなのも一つの考えであろうが、setとしての一つの旗という考え方もありうる。自分の心配は、国旗の尊厳ということから、ぬい合わせに対する抗議があった場合、説明が難かしいということである。そこで米側の再検討を強くおめたい。と述べた。

日章旗をかいげることについては、日本国民もこれに対し、ジョンソン大使は、先ほど申上げて、米人（ランシート）◎三木大臣より。

沖縄住民も希望してきた。ところが、もし、物理的に、両方を一枚の布で出来たサインの中に日章旗もデルタ旗も入れなければならないと厳格に解釈するとすれば、そこに一つの旗として全く別の性格のものが出てくることになる。日本側としても日章旗を使って別の性格のものを作るということになり、国旗の尊厳で問題になる。

沖縄についてみても、これは住民不信のあらわれと言われるのではないか。善意の人達だけが居るわけではなく、ケチをつけようという人も居る。沖縄の人から言えば、別の旗だと一方を外して走るかもしれないとは、不信だということになり、批判しようという立場の人からは批判されよう。

そこで、批判があっても、おさえられるように、米

例の善意を納得させるためには、one set とし、一つの布ではないが、しかし分らず沖縄の標識を つけなければならない と強く抗議するのがよい。

まず信頼してみることが分要である。そこで問題なり弊害が生ずれば、あらためて検討すればよい。そうなれば、国内で批判する者にも対処しうるし、沖縄でも事態は解決できると考える。米側もここまで譲歩したのだから、まず信頼しようというようにした方が得策であろう。われわれも one set ならいいが、日章旗を入れた別のものを作るということになると、どういう根拠があってそういうことをしたかと言われることになろう、と述べた。

これに対し、ジョンソン大使は、米側としては日本側提案が日章旗と他の部分とを分離すべしと

いうものとは了解していなかった。そういうことであれば、相当な困難があると思うと答えた。

これに対し、さらに大臣より、第10回の協議委員会で、日本側提案が分離したものであることはは、より示した。「併せてかゝげる」ということであった。二つの部分をぬい合わせるということでなく、one set として考えるよう、ジョンソン大使が米国政府を説得されることを強く希望したいと述べた。

これに対し、大使は、大臣の伝聞はワシントンに報告する。現在では自分は、二つの旗ということは原則的には合意する根拠を与えられていないと答えた上、こういうことであれば、新聞には今日は旗幟旗の問題は一切出なかったと言わざるを得ないと述べた。

これに対し、大臣より、理由は知らないが新聞は、今日横が議論されることを知っているようにみえる。そこで、米側は「原則的に合意した」と言えない点を心配しているものと考えるので、米側から沖縄船舶横の変更について具体的な提案があり日本側で検討することとなったということにしてはどうかと示唆した。大使は、そうすると、米側の提案は何であったか、日本側が受諾しえなかったのは何故か、というふうに具体的問題が出てしまうとして難色を示した上、大臣は、この問題が新聞に出た方がいいと御考えかを質した。

これに対し、大臣より、この問題がスムーズに解決される見とおしがあれば外に出てもいいが、ワンポンで原則に触れる問題として重視にとられ、容

易に解決しないということであれば、外へ出るのは望ましくない。小さい問題と言えるかもしれないが、日米関係に悪影響を及ぼすようではよくない。われわれとしては、ワンポンに十分説明すれば解決できる問題であると思う。と述べた。

ここで、ジョンソン大使は、米側で協議したいので暫時休憩したいと提議し、大臣もこれに同意を表明した上、内容を言おうというわけでなく、横の問題が議題となったこと、米側の見解が表明されたことだけを簡単に言えばよいと述べた。

休憩後、米側は、新聞発表文案第3項の第1パラグラフはそのまゝとし、第2パラグラフのみをほゞ合意された（実際に使用した）案と同様に修正した案を提示越したが、大臣より、これでは米側の見

解は何であったかと聞かれ、一つの布から求る
様が望ましいということであったと説明せざるを得
ないことになるとのコメントがあり、結局、~~[illegible]~~実際に発表された文言に
修正された。その際ジョンソン大使は、この点は
バックグラウンド・ブリーフィング等は行なわないように
したいと述べ、日本側も同意した。)

Eleventh Meeting of U.S.-Japan Consultative Committee - January 25, 1967

STATEMENT BY AMBASSADOR JOHNSON

Minister Miki, Director General Tsukahara, Gentlemen:

At the 9th Meeting of the Consultative Committee on May 9, 1966, the Japanese side requested the U.S. side to consider the change of the design of the present Okinawan vessel flag to something which includes as part of its design the Japanese national flag. One example which was mentioned was a new Okinawan vessel flag which would consist of the Japanese national flag and a certain sign to indicate Okinawa on top of it. At the 10th Meeting on October 18, 1966, the Japanese side gave the U.S. side a paper showing several samples of the suggested flag design, and the U.S. side indicated that this question would continue to be studied. The U.S. Government has now authorized me, gentlemen, to hand you three designs (別紙 2-A~C) which have been approved as proposals for a new Okinawan vessel flag. Each of these flags consists basically of a combination of the present modified Delta flag and the Japanese national flag. The first has the Japanese national flag with the Delta flag above it. The second has the Delta flag with the Japanese national flag between it and the flagstaff. The third is the Delta flag with a modified Japanese national flag embodied in a triangle at the flagstaff end of the flag.

In each case the combination has been made into a single flag, since the U.S., as a party to the Convention on the High Seas, understands that vessels are required to sail under one flag only.

Statement by Ambassador Johnson

If the Japanese side will indicate which of these three designs is most desirable from its point of view, the U.S. will, in due course, take the necessary steps to establish that choice as the new Okinawan vessel flag. In view of the inclusion of the national flag of Japan in this design, the U.S. Government would expect that, should any question arise in third countries in regard to the new flag, the Japanese Government would join with the U.S. Government in explaining the applicability of this flag to Ryukyuan vessels.

Eleventh Meeting of U.S.-Japan Consultative Committee - January 25, 1967

STATEMENT BY HIGH COMMISSIONER UNGER

Minister Miki, Minister Tsukahara, Gentlemen:

First, I look forward to Minister Tsukahara's visit to Okinawa and hope it can be soon. I particularly welcome the opportunity to attend this 11th meeting of the U.S.-Japan Consultative Committee. It gives me the chance to see at first hand the implementation of the cooperation between our two governments which is so vitally essential to continued progress in the Ryukyus and the enhancement of the welfare and well-being of the people of those islands.

My attendance here today, also gives me the chance to express to you my conviction, gained during my past three months as High Commissioner of the Ryukyu Islands, concerning the importance of the military base in the Ryukyus to the defense of the Free World in the Far East, including Japan, and of the absolute necessity for close cooperation between our two governments in making that base effective.

Some of the recent developments in the cooperative relationship between Japan and the United States concerning Okinawa which I am very happy to see include: progress in implementing the agreement whereby the Government of Japan will increase its exercise of responsibility with respect to Okinawan travelers abroad, including emigrants; and the marked increase in Japanese Government assistance to the Ryukyus. Such cooperation from the Japanese Government is most welcome,

In this connection, I will continue to endeavor to take any and all appropriate actions that will raise the standard of living, including the public health, education and welfare sectors, of all the people of the Ryukyus to the level existing in comparable areas of Japan proper.

Finally, I assure you that the United States Civil Administration in the Ryukyus will continue to follow the policy of delegating authority to the Government of the Ryukyu Islands to expand and strengthen the powers of that government. As I am sure you know, I have already rescinded or amended certain items of U. S. Civil Administration legislation in line with that policy. Furthermore, I have presented the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Islands with a list of 29 additional items of such legislation which I stand ready to rescind as soon as the Ryukyuan legislature enacts appropriate local legislation to replace them.

Thank you again for the privilege of attending this meeting today.

~~DRAFT~~

Eleventh Meeting of U.S.-Japan Consultative Committee - January 25, 1967

STATEMENT BY AMBASSADOR JOHNSON

Minister Miki, Minister Tsukahara, Gentlemen:

I fully agree with the sentiments expressed by you, Mr. Minister, on the work and importance of this Consultative Committee. I assure you that we approach its work in the same spirit. I most particularly welcome the opportunity for a full and frank exchange of views and for cooperation with the Government of Japan in promoting the welfare of the Okinawan people. This cooperation has already resulted in remarkable progress.

In discussing the question of Okinawa, the welfare of the people is one of the most important aspects to be considered. Additional aspects to be considered are the relations between the people of Okinawa and Japan, as well as the relations between the Okinawan people and the Government and people of the United States. Also, as you quite properly pointed out, Mr. Minister, we must think of the ability of the United States to carry out its security commitments to Japan as well as its general responsibility for the peace and security of the Far East. Thus, there are many factors that we will wish to consider in our discussions.

This Committee has done fine work in the past. We, the new members on this side of the table, hope that even greater progress and closer cooperation can be achieved in the future.

Thank you.

~~第11回日米協議委員会における~~

~~塚原総務長官挨拶~~

~~昭和42年1月25日~~

（塚原長官）

「私は昨年12月の内閣改造により総理府総務長官に就任しました塚原でございます。

就任早々国会解散、総選挙等の事情により、未だ沖縄を訪問する機会を得ませんが、総選挙後できるだけ早い機会に沖縄現地の事情を視察し、今後の沖縄問題に対処して参りたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

私は先づ、本日御出席いただいているアンガー高等弁務官が昨年11月沖縄に着任されて以来、琉球民裁判所制の改革、新たな民立法による布告布令の廃止等の方針を打ち出され、琉球政府の自治権の拡充のために努力されていることに対し、日本政府はこれを高く評価し、今後の改革に非常な期待をよせていることを申し上げたいのであります。

私は、この機会をかりて、一言申し上げたいと存じます。

申すまでもなく、沖縄は日本本土を含ひ極東の安全保障上重要な役割を果している米国の軍事基地がおかれ、平和条約第三条によつて、戦後21年の今日も米国がその施政権を行使することとなつております。

一方、94万の沖縄住民を含めた1億日本国民が沖縄の祖国復帰の悲願を今日までいだきつづけてきていることもまた厳粛な事実であります。

私は、米側が、彼等のこの沖縄の本土復帰の悲願について十分考慮されるよう要望するとともにこの日本国民の純粋な国民感情を理解されこれを今後の沖縄施政に反映していただきたいと思います。

沖縄諸問題の解決は、日米相互の真の理解と緊

密な協力なくしては期待することができないのでありまして、これがためには、沖縄問題について日米両国がお互いに率直な意見の交換をしてゆくことが最も大切であると考えております。

何卒よろしくお願い致します。有難うございました。」

17 別紙甲

~~昭和42年度日本政府の対沖縄援助の日本側対案についての塚原総務長官説明~~

~~昭和42年1月25日~~

塚原長官：

それでは昭和42年度日本政府の対沖縄援助の日本側対案について、説明いたしたいと存じます。

昨年10月18日に開催されました第10回日米協議委員会において米側より提案のありました1967日本会計年度（一部1968年度に支出されるものを含む。以下同じ。）における日本政府の対沖縄援助費の要請につきましては、その後日本政府部内において十分検討しました結果、本日日本政府の対案として提出する運びになつた次第であります。

今回の日本側提案によりますと、その総額は103億4831万5000円（2874万5319ドル）でありまして、米提案額とほぼ同額であります。その内容におきましても、特別な事情のあ

18

るものを除き、できるかぎり、米側提案の趣旨を尊重するよう努めておりますが、日本と沖縄の会計年度の相違している事情に鑑み、日本政府の予算としては1967、1968両年度に分けて計上することとしたのであります。

なお、詳細については後刻山野特連局長より補足説明をいたさせたいと存じます。どうぞ米側におかれても日本側提案の内容を十分ご検討いただき、私としてはできるだけ早い機会に1967日本会計年度の日本政府の対沖縄援助費について日米の最終的合意に達することを期待するものであります。

なお、私は明年度の日本政府の対沖縄援助が103億（2870万ドル）と画期的に増額されたことに関連して、米側におかれてもプライス法の現行沖縄援助の限度額を大巾に引き上げられるよ

う強く希望いたします。」

20 第8回 第1

~~第1回日米協議委員会における説明~~
~~総理府特別地域連絡局長説明要旨~~

山野 総理府特別地域連絡局長：

「それでは，私から1967日本会計年度日本政府の対沖縄援助費の日本側提案に関連して~~私は~~2，3点の点につき簡単に御説明申し上げます．

先づ第一点は本日日米協議委員会に日本側提案を提出するために十分な準備期間がなかったため，資料等につき不備の点がありますことを御了承願いたいと存じます．これらの点については後刻米側の求めに応じ必要な資料を整備して十分な説明を致したいと存じます．

第二点は日本側提案のうち，頂戴した

~~appropriate~~ 21

相違については附属資料の~~説明~~説明の項に記載してありますのでその概略を御理解戴けると存じますので，私はここでは日本側提案で，対沖縄援助費が1967．68両日本会計年度の予算に計上されることになっている点について説明しておきたいと存じます．

日本側提案では，援助事業のうち建設事業関係，~~livelihood protection~~生活保護費，教職員給与費等のごとく琉球政府にfinanceおいて毎月支出が行われるもの及び農林漁業融通資金等についてはこれまでのように各援助事業の金額を全部1967年度に計上することなく，その一部は68年度予算に計上することとしております．

3.

従って総額 10,348,315千円のうち67年度予算計上額は 8,242,452千円、68年度予算計上額は 2,105,863千円となっております。

この理由としましては、日本政府の援助事業は琉球政府会計年度の67年7月から68年6月末までに実施する事業に援助するのでありますから、琉球政府において68年4月から6月末までの間に contractor 請負業者等に支払いを行ないあるいは資金を必要とするものについては日本政府の予算の建前からみれば68年度予算に計上することが合理的であり、一方琉球政府の側においても、日本政府の援助金

4.

が68琉球政府会計年度中に入れば琉球政府の事業執行上何ら支障はないと考えられるからであります。

即ち、援助金額を67、68両年度に分割計上する割合はおおむね次のとおりであります。建設事業関係は67年度70%、68年度30%であり、生活保護費、教職員給与費のごとく毎月支出が行なわれるものは67年7月から68年3月までの分は67年度予算、68年4月～6月までの分は68年度予算にそれぞれ計上しております。また農林漁業融通資金、中小企業融通資金は、資金需要が琉球政府1968会計年度の半ば以前までに全部集中することは考え

5.

られないので援助金額の約45%~~以上~~の金額を68年度予算に計上することとしております。

~~Funds for Trust Fund Bureau~~

なお、資金運用部資金は制度発足間もなくであり琉球政府内部の資金による資金運用計画も~~存在する~~あるので日本政府援助金は制度運営の状況をみて支出することとし68年度に計上しております。

以上が日本政府の予算計上方法の概要でありますが、いうまでもなく~~この特異性によって~~琉球政府の予算計上にあたっては従来通り日本援助の総額並びに各事業項目の金額の金額を1968年度琉球政府会計予算の予算に計上することにはかわりはありません。

6.

以上、疑問につき簡単に説明いたした次第であります。宜敷ゥじぎいました。」

第11回日米協議委員会における
塚原総務長官挨拶

昭和42年1月25日

私は昨年12月の内閣改造により総理府総務長官に就任しました塚原でございます。

就任早々国会解散、総選挙等の事情により、未だ沖縄を訪問する機会を得ませんが、総選挙後できるだけ早い機会に沖縄現地の事情を視察し、今後の沖縄問題に対処して参りたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

私は先づ、本日御出席いただいているアンガー高等弁務官が昨年11月沖縄に着任されて以来、琉球民裁判所制の改革、新たな民立法による布告布令の廃止等の方針を打ち出され、琉球政府の自治権の拡充のために努力されていることに対し、日本政府はこれを高く評価し、今後の改革に非常な期待をよせていることを申し上げたいのであります。

私は、この機会をかりて、一言申し上げたいと存じます。

申すまでもなく、沖縄は極東の安全保障上重要な役割を果している米国の軍事基地がおかれ、平和条約第三条によつて、戦後21年の今日~~まで~~も米国がその施政権を行使することとなつております。

一方、94万の沖縄住民を含めた1億日本国民が沖縄の祖国復帰の悲願を今日までいだきつづけてきていることもまた厳粛な事実であります。

私は、米側が、彼等のこの沖縄の本土復帰の悲願について十分考慮されるよう熱望するとともにこの日本国民の純粋な国民感情を理解されこれを今後の沖縄施政に反映していただきたいと思います。

沖縄諸問題の解決は、日米相互の真の理解と緊

密な協力なくしては期待することができないのでありまして、これがためには、沖縄問題について日米両国がお互いに率直な意見の交換をしてゆくことが最も大切であると考えております。

何卒よろしくお願い致します。有難うございました。

Remarks by Director-General Tsukahara
at the Eleventh Meeting of the Japan-U.S.
Consultative Committee on Okinawa

January 25, 1967

I took office as Director-General of the Prime Minister's Office in the new Cabinet which was formed last December.

Although I have not had the opportunity to visit Okinawa because of the developments which immediately followed my appointment, such as the dissolution of the Diet and the general elections, I should like to make personal observations of the actual situations in Okinawa at an earliest possible opportunity after the general elections and to gain necessary enlightenment to handle properly problems pertaining to Okinawa in future.

High Commissioner Unger, who is with us today, has endeavored since he assumed his present post in Okinawa last November to expand the autonomy of the Government of the Ryukyu Islands through such measures as the expression of his intent to revise the appointment system of judges of the Government of the Ryukyu Islands courts and the replacement of certain ordinances by new legislation of the Government of the Ryukyu Islands. The Japanese Government holds his efforts in high esteem and looks forward to further progress to be made in future.

I

I should like to take this opportunity to give some of my thoughts on the Okinawan problem.

Needless to say, there are located in Okinawa the U.S. military bases which play an important rôle for the maintenance of security in the Far East including Japan proper and the U.S. is still exercising administrative rights in accordance with Article 3 of the Peace Treaty today, twenty-one years after the end of the war. On the other hand, however, it is an undeniable fact of life that throughout these years all the people of Japan including nine hundred and forty thousand residents of Okinawa have continued to entertain an ardent desire for the return of Okinawa to its homeland. I wish to request that the United States Government will pay full attention to this strong wish of the Japanese for the return of Okinawa to Japan. I also wish that the United States will understand this sincere national feeling of the Japanese people and reflect that understanding on its future administration in Okinawa.

It is not possible to anticipate any solution to the problems concerning Okinawa without genuine mutual understanding and close collaboration between our two countries.

I

I believe, therefore, that a frank exchange of views on the Okinawan problem between Japan and the United States is most important and strongly needed. I ask for your cooperation and understanding.

Thank you very much.

Eleventh Meeting of U.S.-Japan Consultative Committee - January 25, 1967

STATEMENT BY HIGH COMMISSIONER UNGER

Minister Miki, Minister Tsukahara, Gentlemen:

First, I look forward to Minister Tsukahara's visit to Okinawa and hope it can be soon. I particularly welcome the opportunity to attend this 11th meeting of the U.S.-Japan Consultative Committee. It gives me the chance to see at first hand the implementation of the cooperation between our two governments which is so vitally essential to continued progress in the Ryukyus and the enhancement of the welfare and well-being of the people of those islands.

My attendance here today, also gives me the chance to express to you my conviction, gained during my past three months as High Commissioner of the Ryukyu Islands, concerning the importance of the military base in the Ryukyus to the defense of the Free World in the Far East, including Japan, and of the absolute necessity for close cooperation between our two governments in making that base effective.

Some of the recent developments in the cooperative relationship between Japan and the United States concerning Okinawa which I am very happy to see include: progress in

implementing

implementing the agreement whereby the Government of Japan will increase its exercise of responsibility with respect to Okinawan travelers abroad, including emigrants; and the marked increase in Japanese Government assistance to the Ryukyus. Such cooperation from the Japanese Government is most welcome. In this connection, I will continue to endeavor to take any and all appropriate actions that will raise the standard of living, including the public health, education and welfare sectors, of all the people of the Ryukyus to the level existing in comparable areas of Japan proper.

Finally, I assure you that the United States Civil Administration in the Ryukyus will continue to follow the policy of delegating authority to the Government of the Ryukyu Islands to expand and strengthen the powers of that government. As I am sure you know, I have already rescinded or amended certain items of U. S. Civil Administration legislation in line with that policy. Furthermore, I have presented the Chief Executive of the Government of the Ryukyu Islands with a list of 29 additional items of such legislation which I stand ready to rescind as soon as the Ryukyuan legislature enacts appropriate local legislation to replace them.

Thank you again for the privilege of attending this meeting today.

Eleventh Meeting of U.S.-Japan Consultative Committee - January 25, 1967

STATEMENT BY AMBASSADOR JOHNSON

Minister Miki, Minister Tsukahara, Gentlemen:

I fully agree with the sentiments expressed by you, Mr. Minister, on the work and importance of this Consultative Committee. I assure you that we approach its work in the same spirit. I most particularly welcome the opportunity for a full and frank exchange of views and for cooperation with the Government of Japan in promoting the welfare of the Okinawan people. This cooperation has already resulted in remarkable progress.

In discussing the question of Okinawa, the welfare of the people is one of the most important aspects to be considered. Additional aspects to be considered are the relations between the people of Okinawa and Japan, as well as the relations between the Okinawan people and the Government and people of the United States. Also, as you quite properly pointed out, Mr. Minister, we must think of the ability of the United States to carry out its security commitments to Japan as well as its general responsibility for the peace

and

and security of the Far East. Thus, there are many factors that we will wish to consider in our discussions.

This Committee has done fine work in the past. We, the new members on this side of the table, hope that even greater progress and closer cooperation can be achieved in the future.

Thank you.

中軍務

Remarks by Director-General Tsukahara at the Eleventh Meeting of the Japan-U.S. Consultative Committee on Okinawa

January 24, 1967

I took office as Director-General of the Prime Minister's Office in the new Cabinet which was formed last December.

Although I have not had the opportunity to visit Okinawa because of the developments which immediately followed my appointment, such as the dissolution of the Diet and the general election, I should like to make personal observations of the actual situations in Okinawa at an earliest possible opportunity after the general election and to handle the Okinawan problem in future.

High Commissioner Unger, who is with us today, has endeavored since he assumed his present post in Okinawa last November to expand the autonomy of the Government of the Ryukyu Islands through such measures as a revision to the appointment system of judges of the Government of the Ryukyu Islands courts or replacement of certain ordinances by new legislatives of the Government

of

of the Ryukyu Islands. I should like to make it clear that the Japanese Government holds his efforts in high esteem and looks to further improvements

I should like to take this opportunity to give some of my thoughts on the Okinawan problem.

Needless to say, there are located in Okinawa the U.S. military bases which play an important rôle for the maintenance of security in the Far East and the U.S. exercises administrative rights in accordance with Article 3 of the Peace Treaty even today, twenty-one years after the end of the war. It is also an undeniable fact of life that throughout these years all the people of Japan including nine hundred and forty thousand residents of Okinawa have continued to entertain an ardent desire for the return of Okinawa to its home. I wish to request that the Government of the United States will pay full attention to this strong wish for the return of Okinawa to Japan.

I also wish that the United States will understand this pure national feeling of the Japanese people and reflect that understanding on its future administration in Okinawa.

It is not possible to anticipate any solution to the

problem

problem concerning Okinawa without genuine mutual understanding and close collaboration between our two countries. I believe, therefore, that a frank exchange of views on Okinawan problem between Japan and the United States is most important and strongly needed. I ask for your cooperation and understanding.

Thank you very much.

昭和42会計年度における日本政府の
対沖縄援助計画に関する日本側提案要旨

昭和42年1月　日

	昭和42年度計画	昭和43年度計画
I 総額	28,745,319ドル	22,895,700ドル　5,449,619ドル
	10,348,315,000円	8,242,452,000円　2,105,863,000円

II 内容

1 通常援助計画

	昭和42年度計画額	昭和43年度計画額
総額	25,826,402ドル	20,384,105ドル　5,442,297ドル
	9,297,505,000円	7,338,278,000円　1,959,227,000円

(1) 第1部門

農業、林業及び漁業	4,031,797ドル	3,248,375ドル　783,422ドル
	1,451,447,000円	1,169,415,000円　282,032,000円

本部門は、耕地護岸、農道、農地開発、農山

漁村電気導入、家畜輸入、森林開発、漁港施設、海岸無線局、農産物等流通対策、水産資源調査、移住振興、農漁業融通資金及び臨時糖業振興助成費等の計画を含む。

(2) 第2部門

交通及び公共土木事業	4,037,708ドル	3,404,478ドル　633,230ドル
	1,453,575,000円	1,225,612,000円　227,963,000円

本部門は、橋梁、港湾施設、気象台備品及び施設、航路標識、公営住宅建設、治水事業、先島テレビ局の建設、先島・沖縄本島間電話施設の建設及び中小企業援助資金等の計画を含む。

(3) 第3部門

労働福祉	4668636ドル	3985669ドル	682967ドル
及び厚生	1680709000円	1434841000円	245868000円

本部門は、医療社者及び医薬品、在琉球精神病者及び結核患者医療費、無医地区診療所のための医療設備、保育所、医療保険及び退職年金計画、生活保護事業、老令福祉年金、児童福祉対策、原爆被爆者対策、清掃施設事業及びハンセン氏病対策等の計画を含む。

(4) 第4部門

教育及び文化	11,575819ドル	9,295,080ドル	2,280,739ドル
	4,167,295,000円	3,346,229,000円	821,066,000円

2 災害復旧特別援助

		昭和42年度計画	昭和43年分計画
総額	2918,917ドル	2511,595ドル	407,322ドル
	1050,010,000円	904,174,000円	146,636,000円

昨年9月の台風災害に対する復旧援助資金の追加要請に対する援助計画である。

	総額	昭和42年度	昭和43年分
1 一般住宅建設	1500,000ドル	1,125,000ドル	375,000ドル
	540,000,000円	405,000,000円	135,000,000円
2 農林漁業資金	500,000ドル	500,000ドル	0
	180,000,000円	180,000,000円	0
3 中小企業資金	250,000ドル	250,000ドル	0
	90,000,000円	90,000,000円	0
4 学校施設	340,703ドル	340,703ドル	0
	122,653,000円	122,653,000円	0
5 護岸施設	148,470ドル	148,470ドル	0
	53,449,000円	53,449,000円	0
6 港湾施設	72,000ドル	72,000ドル	0
	25,920,000円	25,920,000	0
7 公営住宅	107,744ドル	75,422ドル	32,322ドル
	38,780,000円	27,152,000円	11,636,000円

本部門は、教職員給与、公立学校建設、学校用備品、図書館用図書、育英奨学貸付金、琉球大学医学部、教育研修センター建設、子供の国建設及び学生文化センター建設等の計画を含む。

(5) 第5部門

技術援助及びその他	1512442ドル	450403ドル	1061939ドル
	54447000円	16218000円	38229000円

本部門は、技術援助計画、司法庁舎建設、沖縄青少年会館建設及び運用部資金等の計画を含む。